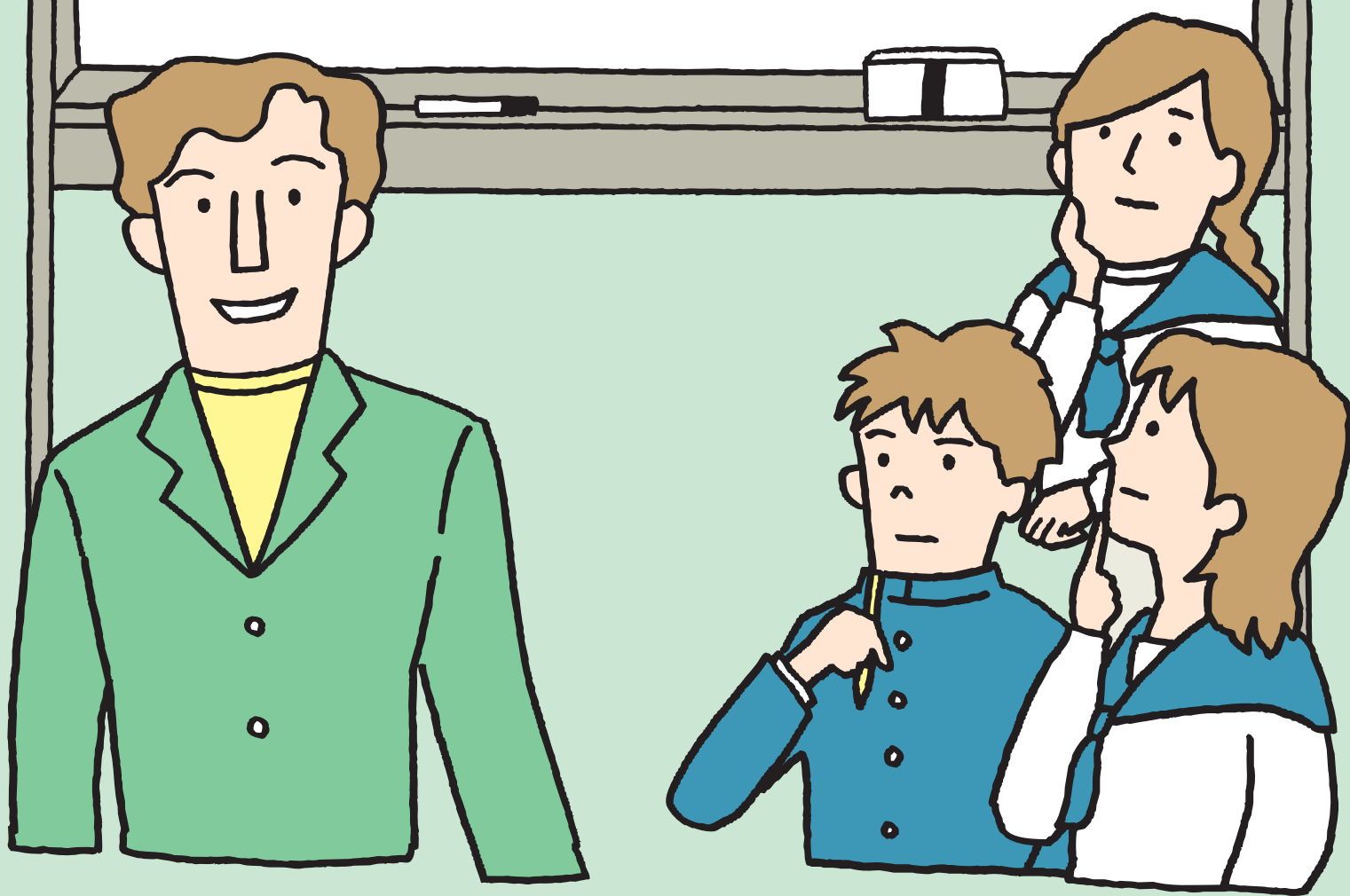


島根県 学校における がん教育Q&A集



令和5年2月

島根県教育委員会

はじめに

島根県教育委員会では、令和元年度より文部科学省の委託事業「がん教育総合支援事業」を活用し、がん教育の実践研究に取り組んでいます。

令和3年度には、学校でがん教育を実施する際の参考資料として「学校におけるがん教育の手引」を作成し、取組を進めているところですが、このたび、がん教育の更なる推進を図るため、がん教育に関する質問に答える形の「学校におけるがん教育Q&A集」を作成しました。

手引と併せてQ&A集を積極的にご活用いただき、島根の子どもたちが、がん教育を通じて、がんについて正しく理解し、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めるとともに、自他の健康と命の大切さについて学び、様々な疾病と向き合っている人々と、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力を身につけることができるよう、各学校での一層の推進をお願いいたします。

終わりに、Q&A集の作成にあたり、貴重なご意見をいただいたがん教育推進協議会の委員の皆様や、研究授業等にご協力いただいた協力校をはじめ関係の皆様方に心からお礼申し上げます。

令和5年2月

島根県教育委員会

目次



Q&A

- Q01. どうしてがん教育が必要ですか?..... P1
- Q02. がん教育では、児童生徒にどのような力を
身に付けさせることが必要ですか?..... P2
- Q03. がん教育の指導内容には、どのようなものが
ありますか?..... P3
- Q04. がん教育は、どの時間に実施すればよいですか?..... P4
- Q05. 学習指導案や指導資料は何を参考にして
作成すればよいですか?..... P5
- Q06. がん教育を実施する上で、どのようなことに
配慮が必要ですか?..... P6
- Q07. 外部講師を活用したがん教育を実施するとき、
誰に依頼すればよいですか?..... P8
- Q08. 外部講師に協力を依頼する際の留意点は、
どのようなことですか?..... P9
- Q09. 外部講師を活用した授業について、
取組事例を教えてください。..... P10
- Q10. どのような体制でがん教育を推進したらよいですか?..... P18
- Q11. がんについての正しい情報を知りたいときは、
どうしたらよいですか?..... P23

引用資料・参考資料..... P23



Q

01. どうしてがん教育が必要ですか？

A1

がんそのものの理解やがん患者及び家族への正しい認識を深める必要があるからです。

がんは、日本において死因の第1位であり、死亡総数の約3割を占めています。また、生涯のうち、国民の2人に1人はがんにかかると言われていたことから、がんは重要な健康課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなっています。

しかし、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であることが指摘されています。

がん教育を行うことにより、がんについて正しく理解し、がん患者や家族等のがんと向き合う人々に対する認識を深めることができます。

A2

がん教育を通して、自他の健康と命の大切さを学ぶことができるからです。

「がん教育について」(がん教育総合支援事業 委託 がん教育共有サイトより抜粋)

第3期のがん対策推進基本計画(平成30年3月)には、「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」について、「健康については、子どもの頃から教育を受けることが重要であり、子どもが健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めることが大切である」また、「これらをより一層効果的なものとするため、医師やがん患者・経験者等の外部講師を活用し、子どもに、がんの正しい知識やがん患者・経験者の声を伝えることが重要である」と示されています。

近年、疾病構造の変化や高齢社会など、児童生徒を取り巻く社会環境、生活環境が大きく変化してきており、健康教育もそれに対応したものであることが求められています。生涯のうち国民の2人に1人ががんにかかると言われていた状況を踏まえると、学校における健康教育においてがん教育を推進することは意義のあることです。



Q

02.がん教育では、児童生徒にどのような力を身に付けさせることが必要ですか？

A

がん教育では、がんについて学ぶことを通して、健康に関心をもち、適切な行動ができる力を身に付けさせることが必要です。

がん教育の目標

① がんについて正しく理解できるようにする。

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

② 健康と命の大切さについて主体的に考え、行動できる態度を育成する。

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

がん教育は、がんを他の疾病等と区別して特別に扱うことが目的ではなく、がんを扱うことを通じて、他の様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等も含めた健康教育そのものの充実を図ることが大切です。

そのため、がん教育を通して、生涯にわたって自分や周りの人の健康課題を自覚し、その課題を解決するために必要な意思決定や行動選択、さらには健康な環境づくりを行うことができるように、児童生徒の発達段階に応じた実践力等の資質や能力及び態度を育成することが大切です。



Q

03.がん教育の指導内容には、どのようなものがありますか？

A

がん教育において取り扱う主な内容は下記のとおりです。

がん教育を健康教育の一環として実施するにあたり、学習指導要領の内容を踏まえる必要があります。

下記のア～ケ、すべての内容を取り上げることは、現在の学校を取り巻く状況では時間的に難しいことから、学校の実情に応じて内容を精選して取り扱うことが大切です。

がん教育において取り扱う内容例と各校種の学習指導要領（体育、保健体育）との関係

校種	小学校	中学校	高等学校
学習指導要領	体育 保健領域	保健体育 保健分野	保健体育 科目保健
内容例			
ア がんとは何か（がんの要因等）		◎	◎
イ がんの種類とその経過			◎
ウ 日本におけるがんの状況			◎
エ がんの予防	○	◎	◎
オ がんの早期発見・がん検診		○	◎
カ がんの治療法		○	○
キ がんの治療における緩和ケア			○
ク がん患者の「生活の質」			○
ケ がん患者への理解と共生			○

◎：学習指導要領の主な内容である「理解すること」に当たる部分

○：内容を補足して触れるようにする部分

Q

04.がん教育は、どの時間に実施すればよいですか？

A

がん教育は健康教育の一環として行われることから、保健体育科を中心に、各教科、特別の教科 道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、学校の実情に応じて学校教育活動全体を通じて行います。

中学校、高等学校では、保健体育科等において、科学的根拠に基づき理解することを主なねらいとすることが考えられます。また、小学校を含むそれぞれの校種で、道徳科等において、がんを通じて健康と命の大切さを育むことを主なねらいとすることが考えられます。

教科等横断的に取り組むことで、それぞれの内容を関連付けて学ぶことができ、効果が上がります。

また、学校の掲示板や図書館に特設コーナーを設けることも考えられます。



がん教育の内容は多岐にわたることから、特定の教科のみで網羅することはできません。がん教育で取り扱う内容や授業のねらいを定め、どの教科、どの領域で行うことが適切かを検討し、学校保健計画にがん教育を位置付け、全教職員の共通理解のもと、計画的・組織的に実施することが大切です。

【参考】

「学校におけるがん教育の手引」には、中学校・高等学校それぞれのモデル校や協力校の取組事例が掲載されています。

「学校におけるがん教育の手引」P17～38

Q

05.学習指導案や指導資料は何を参考にして作成すればよいですか？

A

下記の資料を参考にしてください。

文部科学省が作成したスライド教材や映像資料は、がん教育の考え方や進め方、がん教育の基礎知識やがん患者の経験談等が掲載されています。また、「学校におけるがん教育の手引」では、中学校、高等学校のモデル校や協力校の取組事例を掲載しています。これらを参考にし、各学校のがん教育の実践へつなげてください。

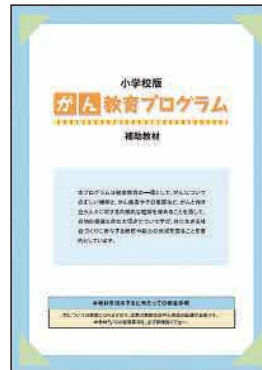
【参考】

文部科学省ホームページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/I370005.htm



がん教育推進のための教材
(平成28年4月)(平成29年6月一部改訂)
(令和3年3月一部改訂)



がん教育推進のための教材 補助教材
(令和3年3月 一部改訂)

教育庁保健体育課 健康づくり推進室ホームページ

<https://www.pref.shimane.lg.jp/hokentaiku/kenkousuisin/>



「学校におけるがん教育の手引」
(令和4年2月)



Q

06.がん教育を実施する上で、どのようなことに配慮が必要ですか？

A1

小児がんや身近にがん患者がいる児童生徒への配慮が必要です。

小児がんの当事者や小児がんにかかったことのある児童生徒への配慮

がん教育では大人になってからのがんを対象にしています。

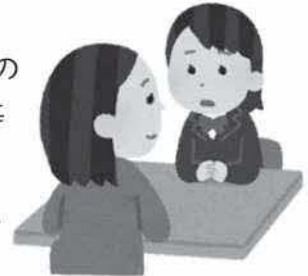
小児がんは、大人のがんと違った特徴がありますので、がん教育を実施するにあたっては、本人、保護者はもちろんのこと、主治医の意見等を聞き、実施の有無や実施時期、内容について慎重に検討することが必要です。

身近にがん患者やがん等で亡くなった人がいる児童生徒への配慮

2人に1人ががんにかかると言われている状況からも、がん教育を実施するにあたっては、このような児童生徒がいるという前提で授業を進める必要があります。

指導内容について十分に検討することはもちろんですが、児童生徒の保護者に対して、どのような授業を行うか事前に伝えたり、アンケート等で要望や配慮事項の把握に努めたりすることが考えられます。

また、授業中や授業後の様子や感想文等から、気になる児童生徒に対して、個別の対応を行うことも必要です。



【参考】

〈配慮が求められる事例〉「外部講師を活用したがん教育ガイドライン（文部科学省）」

- 小児がんの当事者、小児がんにかかったことがある児童生徒がいる場合
- 家族にがん患者がいる児童生徒や、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合
- 生活習慣が主な原因とならないがんもあり、特にこれらのがん患者が身近にいる場合
- がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒や、家族に該当患者がいたり、家族を亡くしたりした児童生徒がいる場合

「学校におけるがん教育の手引」では配慮例を示しています。配慮の一つとして、がん教育を実施する際に、学年だより等（通知文）を通じて、保護者や児童生徒にあらかじめ知らせておくことも大切です。

通知文例(様式)は、保健体育課健康づくり推進室のホームページからダウンロードすることもできます。 「学校におけるがん教育の手引」P8,9

児童生徒が置かれている環境や背景、また、児童生徒や保護者の感じ方や受け取り方もそれぞれ異なることから、一律の対応を示すことは困難です。このため、具体的な配慮の方法については、児童生徒の状況を最もよく把握している教職員(学校)で、校内の共通理解のもと、個別の状況に応じて検討を行い、決定することが大切になります。

A2

がんに関して、誤解を与える可能性のある情報を提供しないような配慮が必要です。

がんを不治の病と認識している人も多いと言われていますが、実際は、早期がんでは9割近くが治るとされており、がんは治療可能な病気となっています。一方で、死因の1位を占めており、がんで亡くなっている人は多くいます。

このことから、「がんは不治の病である」とか「必ず治る」などの誤解を与える可能性のある情報は与えないように注意する必要があります。

がん教育を行う際に、がんの要因や予防について取り扱うことがあると思います。バランスのよい食事や禁煙、運動習慣を身に付けること、検診を受けること等、がんを予防する上で効果があることが各種資料にも掲載されていますが、それらを心がけていても、がんにならないわけではありません。

がん教育を行う上では、「がんになった人の生活習慣が悪かった」などの誤解を与えないように注意する必要があります。

胃がんや肝がん、子宮頸がんのように、がんにはウイルスや細菌等の感染が原因で異常な細胞が増殖し、がん化するものもありますが、がんそのものが他人にうつるわけではありません。

がん教育を行う上では、「がんは他人にうつる病気である」などの表現をしないように注意する必要があります。

Q

07.外部講師を活用したがん教育を実施するとき、誰に依頼すればよいですか？

A

がん教育では、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるために、医療従事者やがん経験者等の外部講師の活用が効果的です。

外部講師に協力を依頼する際は、がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合は、専門的な内容を含むため、学校医、がん専門医（「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン、がん診療連携拠点病院等の活用を考慮）など、医療従事者による指導が効果的と考えられます。

また、健康や命の大切さをねらいとした場合は、がん患者やがん経験者等による指導も効果的と考えられます。



【参考】

島根県では、学校におけるがん教育に協力が得られる医療機関、医療従事者、がん患者、がん経験者の「島根県がん教育外部講師リスト」を年度当初に各学校へ発出しています。外部講師を活用する際、講師選定の参考にしてください。

外部講師リスト活用の流れ

- ①学校は外部講師リストにより派遣依頼する講師を決定し、連絡先へ事前相談。
(参考様式1)
- ②外部講師から学校へ派遣が可能かどうか回答。
- ③学校から正式な依頼文書を送付。(参考様式2)
- ④以後は、学校と外部講師で授業に向けて、適宜打合せ、実施、振り返りを行う。



「学校におけるがん教育の手引」P13～16

*参考様式は、手引に掲載／参考様式データは、保健体育課健康づくり推進室ホームページに掲載

Q

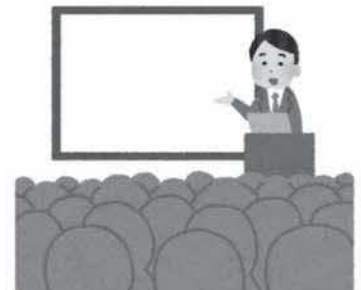
08.外部講師に協力を依頼する際の留意点は、
どのようなことですか？

A

授業等を企画するのは学校であることに留意する必要があります。学校が主体となり、事前事後の打合せを行い、情報を共有することでより効果的な指導につなげることができます。

実施の留意点

- ・各教科担任が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する学校行事等に関連させて指導することで教育効果が一層高まるようにする。
- ・児童生徒の発達の段階に考慮した内容の指導を心がけるなど、学習指導上の留意点を事前に外部講師と共有する。また、授業計画の作成に当たっては、外部講師任せにするのではなく、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。
- ・教員と外部講師は、授業の事前や事後に打合せを行い、授業のねらいを確認し、教育効果を高める。
- ・児童生徒の家族にがん患者やがん経験者がいる場合には、がん患者やがん経験者による体験談は強い印象を与える可能性があることに留意する。



【参考】

外部講師を活用したがん教育ガイドライン(文部科学省)より抜粋

外部講師を活用したがん教育を推進する際のポイント

- ① 学校が主体となって企画・運営を行う。
- ② 核となる教員や授業を担当する教員だけでなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- ③ 学校での取組内容を保護者や関係機関などに周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- ④ 年度当初の職員会議等で、「学校保健計画」に基づき外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

「学校におけるがん教育の手引」P11～16

Q

09.外部講師を活用した授業について、
取組事例を教えてください。

A

令和3年度までの取組事例は、「学校におけるがん教育の手引」の実践編に掲載していますので参考にしてください。
また、令和4年度取組事例は下記をご覧ください。

..... 令和4年度取組事例

〈出雲市立第二中学校〉

「保健体育科(保健分野)での授業」と「外部講師を活用した授業」で実践

第2学年 保健体育科(保健分野)指導案

(1) 単元計画(3章 健康な生活と病気の予防②)

時間	内容	目標(ねらい)	協力体制
1	生活習慣病とその予防1	現代と昔の死因を比べ、現代の生活や病気の違いについて理解する。	
2	生活習慣病とその予防2	生活習慣になる要因について学習した内容をもとに、自分の生活習慣を振り返る。	
3 本時	がんとその予防	がんについての正しい知識を理解し、自分にできる予防方法を考える。	
4	がん教育	普段からがん患者と関わっている医師から、がん検診や治療法について学ぶ。	外部講師の活用 (医師)
5	喫煙と健康	喫煙が体に与える影響について理解する。未成年・周囲・妊婦の喫煙が自分の体や胎児に与える影響について理解する。	
6	飲酒と健康	飲酒が体に与える影響について理解する。未成年・妊婦の飲酒が自分の体や胎児に与える影響について理解する。	
7	薬物乱用と健康	薬物乱用が体に与える影響について理解する。喫煙・飲酒との違いを考える。	
8	喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ	それぞれのきっかけについて考え、誘われたときの対応方法を考える。	



(2) 単元名

がんとその予防

(3) 本時の目標

自分の生活を振り返り、学習した正しい知識や提示された資料をもとにがんの予防方法を考えることができる。【思考力・判断力・表現力】

(4) 本時の展開

学習活動と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点(・)と支援(◎)
1 前時までの内容確認 ・生活習慣病とは？ 2 がんについてのイメージを書き出す。 【予想される生徒の反応】 ・怖い ・死ぬ ・痛い ・がんの種類 ・早く見つけたら治る可能性が高い	◎ICTを活用する。 ◎黒板に書き出す。
今日のめあて:自分の生活習慣を振り返り、がんを予防するためにできることを考えよう。	
3 がんの仕組みについて知る。 4 資料をもとに予防方法を考える。 グループ → 全体 【予想される生徒の反応】 ・副流煙に気を付ける。 ・お酒はほどほどにする。 ・生活習慣を改善する。(食事に気を付ける・運動をする・睡眠時間をしっかりとる等) ・検診に行く。 5 自分の生活習慣と比べ、自分に合った予防方法を選択する。 個人 → ペア 6 まとめ	・補助教材を活用し、正しい知識を理解させる。 ・ワークシートへ記入させる。 ・学習した内容をもとに考えさせる。 ・生活習慣の改善は具体的に挙げるようにする。 ◎意見がまとまっていないグループへ机間指導 ・自分の生活習慣を振り返る際には、本人の努力ではどうにもならない、家庭環境等の要因の可能性もあることを指導者側が考慮しておく。 ・自分の生活習慣を振り返りながら、一番最適なものを選ぶよう伝える。 ・がんの危険性を減らす5つの健康習慣について確認する。

(5) 評価

	十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
思考・判断 ・表現	・学習した内容や提示された資料をもとに自分が実践できる予防方法を見つけることができる。	・学習した内容をもとに、予防方法をみつけることができる。	・授業の中で示した情報を確認する。 ・グループでの話し合いで他者の意見を参考にする。



外部講師を活用したがん教育

1 対象学年 第2学年

2 外部講師 島根大学医学部附属病院
放射線治療科医師 園山陽子氏



3 講演テーマ 「がんを知ろう」

4 授業のねらい 普段からがん患者と関わっている医師から、がん検診や治療法について学ぶ。

5 外部講師との事前打合せポイント

- ・学習指導要領やがん教育プログラム、保健体育の教科書等で、中学校のがん教育で取り扱う内容について情報共有する。
- ・外部講師が伝えたいことや今までの講師経験から話した内容を聞く。
- ・生徒の実態や、前時の授業からわかる生徒がもつがんについての認識を共有する。
- ・外部講師が作成したパワーポイントを見ながら、意見交換をし、授業の流れを完成させる。
- ・実施する際の講師と授業者の役割分担、時間配分等を確認する。

6 当日の流れ

- 13:40~13:50(10) 事前打合せ
- 13:50~15:10(80) 講義
- 15:10~15:25(15) 質疑応答
- 15:25~15:40(15) 振り返り・片付け

7 内容

- ・がんのしくみについて
- ・がんの予防方法について
- ・がん検診と治療について

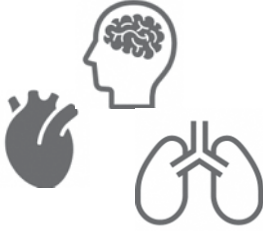


8 参考資料教材(抜粋)

①クイズで生徒の心を掴む。

第2問

この中で一番がんになりにくいのはどれでしょう？



A 脳

B 心臓

C 肺

②生徒がもつがんのイメージを提示する。

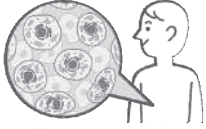
がんについて知っていること／イメージ

2年3組では...	2年4組では...
<ul style="list-style-type: none"> ・危険な病気 (かかったら死ぬ) ・酒・たばこ→なりやすい ・長い間入院が必要 ・ステージが進む→手術 ・再発する可能性がある ・抗がん剤→髪が抜ける ・がん細胞ができるスピード速 	<ul style="list-style-type: none"> ・「死因」でよく聞く ・早期発見すると治りやすい ・おこげを食べるとなるらしい... ・子どもなるとたまに聞く (小児がん) ・良性と悪性がある ・年を取るとなりやすい ・体のさまざまなどころにできる

③がん教育プログラム(文部科学省)を活用する。

がんのなりたち

わたしたちの体の細胞は毎日分裂し新しくなっている



約37兆個

細胞分裂するとき
へんい
変異
が起こることがある

④前時で考えた予防方法を活用する。

みんなが考えたがんの予防

食生活を改善したほうが良い	運動不足	夜更かし 睡眠不足
↓	↓	↓
1日3食 バランスよく とると 健康な体になる	毎日続けられる 運動をする メタボ予防に...	22時に寝る 寝室にスマホを 持っていかない 睡眠時間確保

⑤生徒の意見を踏まえて医師の視点からの予防方法を伝える。

がんの予防

🍴🍴

食生活を
見直す




- ・塩のとりすぎ、野菜不足などは明らかによくない。
- ・偏った食事にならないように気を付けよう。

⑥予防方法の一つとしてがん検診を知る。

がん検診

市町村が行っているがん検診は
「胃がん検診」「子宮頸がん検診」「肺がん検診」
「乳がん検診」「大腸がん検診」の5つがあります



メリット: 早期発見・早期治療ができる。
デメリット: 偽陰性・偽陽性がある。
過剰な治療になる可能性がある

⑦放射線治療について学ぶ。

放射線治療は、がん放射線をあてることによって、がんをなくすことや、小さくすることができます。

どんな治療が勉強してみましょう。

何をしているのかというと…

このような機械で治療をします。

がんを狙い撃ちできる治療です。

放射線があたると痛い？

大丈夫。放射線があたっているとき、痛みや熱を感じることはありません。

⑧外部講師の思いを知る。

がんの治療

放射線 手術 薬
(抗がん剤など)

治療をするとき、効果や副作用を正しく知って、自分で選ぶ必要があります。

⑨質疑応答の時間

生徒から出た質問

【がんに関すること】

- ・「がんの色やがんの形は？」
- ・「将来がんはもっと治りやすい病気になるのか？」
- ・「最新のがんの治療はどんなものがあるか？」
- ・「もしがんになったらどうればよいか？」
- ・「がんができる場所で危険度は違うか？」
- ・「体にどんな変化があったらがんと分かるか？何か兆候はあるか？」

【外部講師に関すること】

- ・「どうして放射線科医師になったのか？」
- ・「放射線科医師になってから、大変だったことは？」
- ・「今の仕事のやりがいは？」
- ・「がん患者と接するときに気を付けていることはなにかあるか？」
- ・「なぜ子ども向けにがん教育をしているか？」



◇生徒の感想

- ・がんの治療については提示された治療方法の中から、自分で選択することができること知り、驚きました。
- ・がん検診を受けることで、がんを見つけられ、早く治療を受けられるということは知っていたけれど、100%見つけられるものではなく、偽陰性・偽陽性などデメリットもあることがわかりました。
- ・正しい生活習慣を続けたり、ワクチンを打ったりすることで、ある程度がんを防ぐことができるし、早期の発見や適切な治療で治ることもわかったので、少し恐怖心が和らぎました。
- ・がんの進行度によってやる治療も難しくなるし、治る確率も低いこともわかりました。がんの予防は家族も実践できることだったので、一緒にやってみたいと思いました。
- ・普段の日常生活の中でも続けられそうなことがたくさんあったので、今からでもそれを習慣にすることで、高齢になってもがんになりにくくなるのだと思いました。
- ・自分はがんにならない、と思っていました。この授業を受けて、これからの生活で少しでもがんになるリスクを下げるために、自分にできることを普段から考えて生活していきたいと思いました。

〈島根県立隠岐水産高等学校〉

食育を通じた「がん教育講演会」を实践



- 1 対象学年 第1学年
- 2 外部講師 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター
准教授 比良松道一氏
- 3 講演テーマ 『だから「みそ汁」なんだ!』
- 4 授業のねらい 講話やみそ汁づくりの实践を通して、健康的な生活習慣への意欲を高め、行動変容を促す。
- 5 内容
 - ・がんと生活習慣について(乳がんや大腸がん等 食事との関係)
 - ・みそについて(日本の伝統的な食)
 - ・みそ汁調理(みそ汁をつくる理由)※4種類のみそ
- 6 外部講師との事前打合せポイント
 - ・事前アンケートでこれまで学習したがん教育の内容、生徒の実態について情報共有する。
 - ・寮生が多い学校の実態について共有し、授業内容や流れを確認する。
 - ・配慮事項について確認する。
 - ・調理体験を取り入れた内容にするため、事前事後の授業内容も確認する。
 - ・教材で使う地元食材について確認する。
 - ・授業中の役割分担、時間配分等、授業の詳細を確認する。
- 7 当日の流れ
 - 9:50~11:05 1年保健授業I-K(海洋システム科)
 - 11:20~12:40 1年保健授業I-S(海洋生産科)

【授業時程】

- 9:50~10:20(30) 講義
- 10:20~10:40(20) 調理実習
- 10:40~11:05(25) 講義
(15分でクラス入れ替わり)
- 11:20~11:50(30) 講義
- 11:50~12:10(20) 調理実習
- 12:10~12:35(25) 講義
- 12:35~12:40(5) 片付け等



8 授業の様子



講師のスライドより



- ・味噌＝発酵（はっこう）食品
- ・だし＝ミネラルたっぷりの「いのちのスープ」
- ・旬の野菜…食物繊維（せんい）、成長点や皮に含まれるファイトケミカル

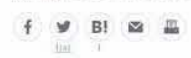


みそのテイスティング中

練習後の1杯がミソ 高校サッカー部員が、みそ汁飲み続けたら…

北村哲朗 2022年7月16日 13時26分

味噌汁プロジェクト



- ✓ 全体の平均で1.16歳腸内年齢が若くなった（改善された）
- ✓ 31人中18人(58%)の腸内年齢が若くなった（改善された）
- ✓ 5月27日に行われた県高校総体の延長戦を含む約110分の中でだれも足がつかなくなった。（以前は2、3人つることが多かった）



紙コップにみそと出汁と具を入れて、湯を注ぎます。
これなら自分でできる！



みそ汁の具を自分で決めていきます。



◇生徒の感想

- ・がんと日常生活が密接に結びついていることを知った。
- ・みそ汁ががん予防に役立つことがわかった。
- ・日本の食文化がどれだけ素晴らしいものなのか、どれだけの日本人の生活、健康を支えてきたのかがよくわかった。
- ・“食を知るといことは病にも有効なこと”という言葉が心に残った。
- ・みそ汁の意外な効能を知ることができたので、毎日しっかり飲みたい。

9 校内の連携

〈保健部との連携〉

保健部が当日の講演会の様子を生徒と保護者を対象にした「ほけんだより」に掲載した。

講演内容を1年生だけではなく、他の学年の生徒や教職員、家庭へ広げ、食を通したがん予防や健康づくりについて学ぶ機会とした。

〈図書館との連携〉

講師である比良松先生が講演の中で紹介された本を図書館に展示し、学んだ意識を継続させるように工夫した。

さらに、「みんなのおみそ汁大集合!」コーナーを設置し、生徒の興味をもたせ、実践につなげる工夫をした。

*校内連携により、講演会の効果が高まった。



ほけんだより



隠岐水産高等学校
保健部 R4.11.1

九州大学 比良松先生来校 食の持つ力を語る

10月19日に九州大学准教授 比良松道一先生が来校され、本校1年生が食を通したがん予防、健康づくりについて学びました。

☆ 体の中に入ってくる毒

水俣病などの公害の歴史から学ぶことが大切です。害はないと言われている食品添加物も、長期摂取した場合どうなるか、今の科学では解明されていません。誰がいつ、どこで、何をどのようにつくったかを学ぶ必要があります。

☆ 生活の仕方が、病気の発症に関与することがあります

たばこ、肥満、食生活が病気の原因となることがあります。生活の仕方を変えると、がんなどの生活習慣病のリスクを減らすことができます。

例) 乳がん発生率: カルフォルニア在住の日本人 > 日本在住日本人 食生活の違いによると考えられています

☆ 病気の予防に貢献 = スーパーフード『みそ汁』& 和食

毎日のみそ汁は腸内環境を整え、腸年齢を改善します。

みそ = 発酵食品 だし = ミネラルたっぷりの「いのちのスープ」に。

旬の野菜 → 食物繊維、ファイトケミカルが含まれます。

お気軽!! みそ汁づくり

【準備するもの】

おわん(コップ) みそ(スプーン1杯程度)
だし(かつおやいりこの粉) 好きな具

【作り方】

みそ + だし + 好きな具 をおわんに入れ
最後にお湯を注いでかき混ぜます。

カットマトは旨みが出るのでおすすめのこと。だしの代わりにお酢を数滴でも。



講義当日は、四種類のお味噌と7種類の具が準備されていました。お味噌は比良松先生こだわりの物も。味噌と具を変えるだけで、同じお味噌汁が異なる料理のようにおいしくいただけました。

20代後半、忙しさから食事がいい加減になり体調を崩しがちだったわたし。ごはんとお味噌汁を欠かさず食べ始めたところ、体調が良くなると気づき、それから長く習慣にしていますが、研究からも証明されていて納得でした。おそるべし、味噌汁。

比良松先生は、大学で「自炊塾」という全国的にも珍しい授業を提供しておられます。

今月の図書館では「お味噌汁・食」をテーマに本がピックアップされる予定ですので、ぜひ手にとってみてください。



Q

10.どのような体制でがん教育を推進したらよいですか？

A

校内のすべての教職員の共通認識のもとに進めることが大切です。

がん教育は、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切です。学級担任や教科担任、保健主事等が中心となって健康教育の一環として企画するものであり、必要に応じて養護教諭と連携しながら実施することが重要です。

がん教育を実施する上でのポイントとして、次の内容が挙げられます。

- がん教育を学校保健計画に位置付け、年度当初の職員会議等で情報を共有する。
- 核となる教員や授業を担当する教員だけでなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- 学校での取組内容を保護者や関係機関等に周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- 外部講師を活用する場合でも学校が主体となって企画・運営を行う。

校内研修の取組事例

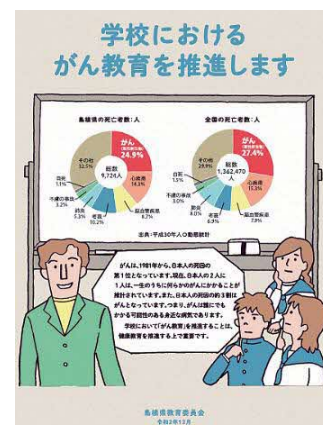
出雲市立第二中学校での校内研修を紹介します。

配付資料：教職員向け啓発リーフレット

「学校におけるがん教育を推進します」

所要時間：10分～15分

資料のダウンロードは
こちらから



「学校におけるがん教育を推進します」
(令和2年12月)

学校における がん教育について



職員会議資料
2022.10.17 mon

学習指導要領の改訂にともない、保健体育科には新たにごん教育が加わった。

主に保健体育科で実施することになっているが、さまざまな視点から、学校全体で取り組んでいきたい。

- ➡ どうしてがん教育が必要？
- ➡ どんなことをするの？
- ➡ 今年度出雲二中では...？
- ➡ 先生方に知っておいてほしいこと

今日の内容は、4つ。

がん



1 日本人の死因1位

2 2人に1人が罹患する病気

3 3人に1人ががんが原因で死亡

がん、と聞いてどんなイメージ？マイナ
スなイメージの人も多い。

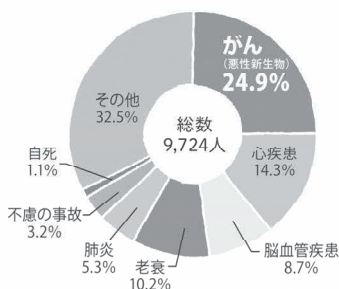
がんに関する「1・2・3」といったら、ど
んなことでしょうか？

がんは、これくらい身近な病気であ
る。いまや、誰でもかかる可能性がある
(自分だけでなく、家族も。)

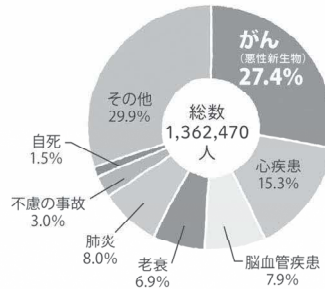
だからこそ、マイナスイメージだけでな
く正しく知ることが大切。

全国と島根県のがんの死亡者数

島根県の死亡者数：人



全国の死亡者数：人



出典：平成30年人口動態統計

左は、島根県での死亡原因。右は全
国の死亡原因。

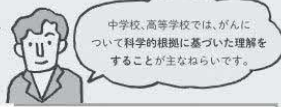
がんは、島根県でも、全国でも、同じ
第1位となっている。

👉 がん教育の定義

がんについて学ぼう

●がん教育とは

健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ります。



がん教育の目標

1. がんについて正しく理解することができるようにする。
2. 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

👉 がん教育の目標

1. がんについて正しく理解することができるようにする。



2. 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

学校において、健康教育の一環で行っていく。

がん教育を通して、がんそのものの理解やがん患者とその家族への正しい認識を深めることができる。

さらに、がん教育を通して、自他の健康と命の大切さを学ぶことができる。

がん教育を推進していくことは、子どもたちが生涯を通じて健康な生活を送ることができるとともに、共に生きる社会づくりに生かすことができる大変意義のあること。

がん教育の目標は2つ

これらの目標のもと、がん教育を進めていく。

がんに関する科学的な知識については、中学校、高等学校で取り扱っていく。

👉 学習指導要領における位置づけ

小学校 体育(抜粋)

G 保健

- (3) 病気の予防
(ウ) 生活習慣病

→望ましい生活習慣を身につける必要がある

そして…

喫煙・飲酒・薬物乱用は健康を損なう原因になる

中学校 保健体育 [保健分野] (抜粋)

2 内容

- (1) 健康な生活と疾病の予防

→生活習慣病などの多くは、調和のとれた生活を実践することで予防できる。

3 内容の取扱い

- (3) がんについても取り扱うものとする

高等学校 保健体育(抜粋)

2 内容

- (1) 現代社会と健康
(ウ) 生活習慣などの予防と

回復

→調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会な対策が必要

3 内容の取扱い

- (1) がんについても取り扱うものとする

小学校では「生活習慣病」について学ぶ。

中学校では「生活習慣病とその予防」について学び、その中でがんについて取り扱うこととされている。

高等学校では「生活習慣の予防と回復」について学び、その中でがんについても取り扱う。

中学校では、教科書にあるように、がんの予防や早期発見(がん検診)までの内容を扱う。

特にがんの治療は「触れる程度」であるが、高校で取り扱う内容を考慮すると、外部講師(医師)を活用してがんの治療法について学んだり、外部講師(がん経験者)を活用して、がん患者の生活について考えたりする時間も必要だと考える。

👉 がん教育において取り扱う内容

内容例/学習指導要領	小	中	高
ア がんとは何か(がんの原因等)		◎	◎
イ がんの種類とその経過			◎
ウ 日本におけるがんの状況			◎
エ がんの予防	○	◎	◎
オ がんの早期発見・がん検診		○	◎
カ がんの治療法		○	○
キ がんの治療における緩和ケア			○
ク がん患者の「生活の質」			○
ケ がん患者への理解と共生			○

中学校・高等学校版 がん教育プログラム 補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者やその家族など、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を図ることを目的としています。

本教材を活用するにあたっての留意事項
 冊子についての変更となります。各県の保健福祉センターについての取扱いが必要です。
 本教材の印刷部数は、必ずご確認ください。

👉 がん教育の目標

1. がんについて正しく理解することができるようにする。

➡ 保健体育科が中心となって授業の中で深める

2. 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。



目標1については、保健体育科が中心となって、保健体育科の授業の中で深めていく。

健康や命の大切さの認識については、小学校を含むそれぞれの校種で、発達の段階を踏まえて指導することが大切だと言われている。

👉 モデル校での取り組み

保健の授業

◆中学校
・がんの予防について
“自分たちにできること”を考える
→ 未来の自分にメッセージを書く

◆高等学校
・がんの現状、予防、検診について考える
→ がん検診の受診率を高めるには？

その他にも...

◆外部講師を活用した講演会
・がん経験者
・医師

◆保健委員会の活動
・掲示物の作成
・リーフレットの作成

◆道徳の授業
・がん経験者との連携授業
・2年生教材
D- (19) 命の尊さ
「命を見つめて
—猿渡瞳さんの六百四十六日—」

令和元年度からのがん教育のモデル校が実施した取組が、このように紹介されている。

保健の授業に限らず、委員会や道徳の授業でもがん教育が進められている。

👉 がん教育の目標

1. がんについて正しく理解することができるようにする。

➡ 保健体育科が中心となって授業の中で深める

2. 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

➡ 全教職員で、道徳・学活・総合の時間や生徒会の活動を通して深める。全校での講演会も◎

目標2については、全教職員で行う。まずは保健体育科としての取組を知ってもらうところから始めたい。

👉 今年度、出雲二中では...？

保健の授業

「3章 健康な生活と病気の予防②
2. がんとその予防」

で正しい知識を身につける

2年生 保健体育

外部講師の活用

医大
放射線治療科
園山先生

今年度、本校では保健体育科で「がんとその予防」について授業をする。

その中で、がんに関する基本的な知識を身に付ける。

また、そのあと島根大学医学部附属病院 放射線治療科 医師の園山陽子先生とTTでの授業を計画している。

外部講師の活用

島根県では、外部講師リストを作成して、外部講師の活用を進めています。

がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合 → 医療従事者による指導 (学校医、がん専門医など)

健康や命の大切さをねらいとした場合 → がん患者やがん経験者による指導

外部講師リストの活用の流れ

- ① 学校はリストにより依頼する講師を決定し連絡先へ事前相談 (参考様式「事前依頼書」)
- ② 外部講師から学校へ派遣が可能かどうか回答
- ③ 学校から正式な依頼文書送付
- ④ 以後、学校と外部講師で授業に向けて打合せ、実施、振り返りを行う

<留意点>

- ・各教科担任が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する学校行事等に関連させて指導することで教育効果が一層高まるようにする。
- ・児童生徒の発達の段階を考慮した内容の指導を心がけるなど、学習指導上の留意点を事前に外部講師と共有する。また、授業計画の作成に当たっては、講師任せにするのではなく、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。
- ・教員と外部講師は、授業の事前や事後に打合せを行い、授業のねらいを確認し、教育効果を高める。
- ・児童生徒の家族にがん患者やがん経験者がいる場合には、がん患者やがん経験者による体験談は強い印象を与える可能性があることに留意する。

これは、普段がんの治療に関わっておられる専門の医師の方からの話を聞くことで、よりがんに関する知識を深めることを目的としている。

今年度、出雲二中では... ?

2年生 道徳 D-(19) 命の尊さ

「31 命を見つめて
—猿渡 瞳さんの六百四十六日—」

「生きている」と感じる時はどんなとき？
「病気のことを聞かされた時の気持ちは？」
「闘病中どんなことを考えていたのだろう」
「生きる」ことについて考える

【引用資料】中学道徳(日本文教出版株式会社)

さらに、2年生の道徳の中にも、がんに関する教材がある。

ここでは、先生方も、“自分だったら”どう伝えるか、がんについてどう語るか考えてみてほしい。

先生方へ

配慮が必要な生徒もいるという前提で...

配慮の例

- がん教育の内容や方法、実施時期を工夫する。
- 「がん教育を行うこと」や「心配があれば、いつでも相談できること」をあらかじめ保護者にたよりや通知文などで周知する。…保健体育課ホームページにある「通知文例」参照
- 本人に限定されるような内容に特化せず、事例を一般化するなどの工夫をする。
- 授業の冒頭で「悲しくなったり、聞いているのがつらくなったりした場合は、先生に伝えてください」等の言葉かけをする。
- 養護教諭等とともに指導をするなど複数体制にし、授業中や授業前後の観察をする。など

2人に1人ががんに罹患する時代なので、がん教育を実施する際には、家族にがん患者やがん経験者、家族をがんで亡くした生徒もいる、という前提で配慮する必要がある。

今回は、事前に保護者宛てに「がん教育を行います」という通知を出す。該当の生徒がいた場合、先生方にもフォローをお願いしたい。

とてもわかりやすい
パワーポイントで
内容がよくわかり、
勉強になった。



がん教育の全体的な流れや
扱う教科等がまとめてあり、
学校でどのように取り組めば
よいかよくわかった。

がんの罹患率や死因の順位
などからがん教育の必要性を
感じた。とても身近なことなので、
生徒が時間をかけて学ぶことが
大切だと感じた。

Q

11.がんについての正しい情報を知りたいときは、
どうしたらよいですか？

A

**国立がん研究センター がん情報サービスで、がんに関する
情報を得ることができます。**

国立がん研究センターの「がん情報サービス一般の方向けのサイト」では、がんに関する情報を得ることができます。

□国立がん研究センター がん情報サービス
<https://ganjoho.jp/public/index.html>



インターネット等を通じた情報の入手が一般的な手法となっている現在、教員が資料収集をしたり、児童生徒が調べ学習をしたりする際にインターネットを活用することがあると思います。

しかし、インターネット上のがんに関する情報は様々であり、適切な情報かどうかを見極めるよう、十分に注意する必要があります。

調べ学習等に取り組みさせる際には、あらかじめ、科学的根拠に基づいた情報源を提示すること等が大切です。



〈引用資料・参考資料〉

文部科学省

- ・「学校におけるがん教育の在り方について報告」（平成27年3月）
- ・「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」（平成28年4月）（令和3年3月一部改訂）
- ・「がん教育プログラム（中学校版補助教材）」
- ・「がん教育推進のための教材」（平成28年4月）（平成29年6月一部改訂）（令和3年3月一部改訂）
- ・平成4年度がん教育総合支援事業 委託「がん教育共有サイト」

島根県教育委員会

- ・「学校におけるがん教育を推進します」（令和2年12月）
- ・「学校におけるがん教育の手引」（令和4年2月）

〈がん教育協力校〉

令和4年度

島根県立隠岐水産高等学校 酒井實三校長、佐々木浩三教諭、若槻太一教諭
出雲市立第二中学校 森山雪美校長、木下恵教諭

〈がん教育推進協議会委員〉

敬称略

	所属・役職	氏名
委員	島根県医師会学校医部会 部会長	浅野 博雄
	島根大学医学部 教授	竹谷 健
	松江市立病院緩和ケアセンター センター長	安部 睦美
	島根大学教育学部 准教授	西村 覚
	島根県がんピアサポーター	若狭 雅子
	島根県公立高等学校長協会代表(県立松江北高等学校 校長)	木原 和典
	島根県中学校長会代表(松江市立第三中学校 校長)	成相 僚一
	島根県養護教諭研究連絡協議会代表(出雲市立大津小学校 養護教諭)	藤原 利恵
	浜田教育事務所 指導主事兼企画幹	山岡 修子
事務局	保健体育課長(健康づくり推進室長)	徳永 恵美
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事兼企画幹	吾郷 修治
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事	諏訪部 淳
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事	福田 環
	保健体育課健康づくり推進室 指導主事	藤坂 昌子
	健康推進課がん対策推進室 主任保健師	宇都宮 拓也

文部科学省委託「がん教育総合支援事業」

「学校におけるがん教育 Q&A 集」

発行年月 令和5年2月

発行者 島根県教育委員会

住所 〒690-8502

島根県松江市殿町1番地

電話 (0852)22-6145